城山ハイキング

城山 (369 m) は、まとめて「四塚連山」と呼ばれる 4 つの山の 1 つです。赤間の登山口から城山に登る道は、よく管理されており、しっかりした丸太の階段が設けられています。登山道からはこの地域全体を眺めることができ、登山者に人気があります。

山頂近くの石垣の名残は、蔦ヶ嶽城の跡を示すものです。蔦ヶ嶽城は 13 世紀に宗像氏が築いたと考えられており、1560 年には敵の攻撃から城を守るために防御が強化されました。宗像氏は、この地域を 16 世紀まで統治し、宗像大社の宮司を務めていました。宗像大社とは、宗像三女神を祀る 3 つの神社の総称です。

城山に登る途中では、希少な植物や菌類をいくつか目にするかもしれません。夏には、山麓近くの深い森で、黄色のウスキキヌガサタケ (学名:*Phallus luteus*) が育ちます。このキノコは、かさから下がっているレースのような「スカート」が特徴です。さらに山を登っていくと白色のウスキキヌガサタケが出てきます。ツチアケビ (学名:*Cyrtosia septentrionalis*) は、この森で育つ珍しい種類の蘭です。ツチアケビの赤いさや型の果実は、この植物が菌従属栄養の蘭の一種であることを示しています。この種の蘭は、光合成によって栄養素を作るのではなく、菌類に栄養を頼っています。

宗像は盆地に位置しており、四塚連山は最も明確な自然の境界線です。四塚連山には特別な装備なく登ることができますし、1 日で 4 つの山すべてに登ることも可能です。